

## 第10回 しあわせ倍増・行革推進プラン市民評価委員会 会議録

- 1 日 時 平成28年3月17日(木) 午後6時30分から午後8時30分まで
- 2 場 所 浦和コミュニティセンター 第14集会室
- 3 出席者 <委員>  
源 由理子委員長、長野 基委員長職務代理、鶴沢 勇委員、  
内田 雅巳委員、江渕 多都子委員、大内 洋委員、  
岡田 晴美委員、金友 清三委員、島田 栄子委員、  
鈴木 奈穂美委員、中村 正樹委員、坂根 伸江委員  
  
<事務局職員>  
都市戦略本部 : 大熊本部長、濱里総合政策監  
都市経営戦略部 : 原副理事、齊藤副参事、小島主幹、  
吉田主査、菅原主査  
行財政改革推進部 : 真々田部長、溝副参事、大塚主幹、吉田主任、  
松下主任
- 4 議 題 平成28年度における評価の進め方について
- 5 公開又は非公開の別 公開
- 6 傍聴者の数 0人
- 7 審議した内容 別紙のとおり
- 8 問合せ先 都市戦略本部 都市経営戦略部  
電話 048-829-1064  
FAX 048-829-1997  
E-mail: toshi-keiei@city.saitama.lg.jp

「しあわせ倍増・行革推進プラン」

市民評価委員会

平成28年3月17日（木）

さいたま市都市戦略本部都市経営戦略部

行財政改革推進部

午後 6時30分 開会

○事務局

それでは定刻となりましたので、開会させていただきます。

皆様、本日も、お忙しいところ、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

委員の皆様には、昨年10月29日の報告会以来、4か月半ぶりとなりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、これより「第10回 しあわせ倍増・行革推進プラン市民評価委員会」を開会いたします。

今回も適宜、写真撮影と録音をさせていただきますので、御了承のほど、お願いいたします。

なお、本日は、田矢委員、藤枝委員から欠席との御連絡をいただいておりますので、御報告いたします。

それでは、資料の確認をさせていただきます。本日の資料は、資料1「しあわせ倍増・行革推進プラン市民評価委員会中間評価報告書」、資料2「平成28年度 しあわせ倍増・行革推進プラン市民評価委員会開催日程」となっております。

本日の議題は、「平成28年度における評価の進め方について」となっております。

それでは、これからの議事につきまして、源委員長に進行をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

○源委員長

委員の皆様、大変お久しぶりでございますが、昨年の委員会での審議や中間報告会を思い出しながら、活発なご意見をいただければと思いますので、今年も御協力をよろしくお願いいたします。

それでは次第に沿って進めます。

議事の「平成28年度における評価の進め方について」ですが、事務局より資料の説明をお願いします。

○事務局

お配りした資料について説明させていただきます。

まず、資料1「しあわせ倍増・行革推進プラン市民評価委員会 中間報告書」ですが、これは、前回の報告会で使用した「しあわせ倍増・行革推進プラン市民評価委員会報

告会資料」をもとに、別冊としてお配りしている「報告会議事録」と、既にお配りした各プランの「達成状況報告書」を併せ、「中間報告書」としてまとめたものでございます。

次に、目次をご覧ください。

内容といたしましては、「しあわせ倍増・行革推進プラン市民評価委員会について」、「市民評価委員会の評価の考え方について」、「重点審議事業の概要及び審議結果」及び別冊から構成されております。

報告会では、重点審議事業について、各所管課長が口頭にて「評価委員会からの意見・提案を踏まえた担当課の方向性」を報告いたしました。この「中間報告書」では、それを文章化して、「評価委員が考える解決策」の欄の次に記載しております。

一例として、14ページをお開き下さい。上段の部分が該当部分で、他の重点審議事業についても同様に加えております。これで、「重点審議調書」の完成となります。

そして、資料1の別冊として「しあわせ倍増・行革推進プラン市民評価委員会報告会議事録」でございます。皆様に校正等を行っていただきまして、また、当日使用したスライドや写真も入れて、分かりやすいように努めて作成したものでございます。

次に、資料2「平成28年度しあわせ倍増・行革推進プラン市民評価委員会 開催日程」をご覧ください。

今後のスケジュールですが、本日を含め、記載のとおり開催していく予定でございます。都合により変更させていただく場合もありますが、御了承願います。また、会場については、今回と同じ「第14集会室」を使ってまいります。

12月の第10回報告会の日程、会場につきましては、後日決定させていただきます。

次に、本日の議題「平成28年度における評価の進め方について」、まず、事務局案を御説明させていただきます。その後、皆様に評価方法について御議論いただきたいと思いますと思っております。

事務局が考える進め方の1点目は、昨年取り上げた重点審議事業が属する分野以外の分野から対象事業を選定し、昨年と同様に評価をいただくというものです。

このことにより、2年間で両プランの全体を網羅することができ、委員会終盤の「総括」に当たりプラン全体に対する横断的な視点を確保できると考えております。また、評価結果を、プランの計画期間終了後においても、当該事業の推進のために活用でき

るといった効果がございます。

具体的には、「しあわせ倍増プラン」は10の分野で構成されており、これまでの審議においては、そのうち4つの分野から重点審議事業を選定いただきました。また、行財政改革推進プランは、「見える改革」、「人の改革」の2つの分野から重点審議事業を選定いただいたところです。

平成28年度は、それ以外の分野から事業を選定して、プラン全体を網羅していただくことで、プラン全体に対する横断的な視点で、終盤の総括に向けて審議を行っていただくというものです。

次に、2点目は、PDCAの観点から、昨年度取り上げた6事業について、どのように改善を行ったのか、又は、行う予定なのか、簡単なフィードバックを行うというものです。

「PDCAサイクル」とは、業務改善活動を示すマネジメント手法のことで、「P（プラン（計画））」「D（ドゥ（実行））」「C（チェック（評価））」「A（アクト（改善））」で、この流れを絶やすことなく回すことで、物事の品質を高めていく手法です

委員会で評価を行った事業についてフィードバックを行うことで、事業の達成に向けたPDCAサイクルを確保する効果が期待できます。

事務局案は、この2点について、第1回と第10回を除く、計8回の中で審議していただくというものです。説明は以上です。

#### ○源委員長

ありがとうございます。

資料がいくつかに分かれておりますので、もう一度確認ですが、資料1と議事録2つに関しては、10月29日の報告会のまとめになります。資料1に関してはこのような形で今後公開していくということでございます。先ほど御説明がありましたように、報告会のときには入っていなかった「評価委員会からの意見・提案を踏まえた担当課の方向性」が全部に入ったということになります。この2つの資料についてはよろしいでしょうか。

こうやってまとまってくると「やった」という感じがいたします。これを昨年行ったわけですがけれども、それを踏まえまして、「平成28年度の評価の進め方」というのが本日の主な議題になります。

事務局案のほうで御説明がありましたとおり、大きく分けて2つのことをしたらどうかということでございます。

まずは、平成27年度に行った審議と、内容、やり方もほとんど同じになるかと思いますが、基本的には、しあわせ倍増プランも行財政革推進プランも、27年度にやった分野以外のところから選んだらどうかというのが基本的な考え方になります。その意図は、プラン全体を見ることで、平成28年度で最後になりますので、全体の総括、全体を通して言えることがあるのではないかとということで、横断的な視点を確保したいということがございます。

ただし、そうは言っても、この課題はやはりすごく重要で、昨年やったけど、もう一度今年も取り上げるべきだというものもあろうかと思えます。これは、次回6月10日のときに皆さんと議論いたしますけれども、ぜひ皆さんが考える、これはやっぱり重要だから取り上げたほうがいいのではというものも含めまして、原則として、やらなかったところに目配りしましょうということもございますけれども、そのような御提案であると思えます。

それから、2点目のPDCAの観点から、平成27年度に審議した6事業、すなわちこの中間報告書に入っているものですが、それらが途中ではありますが、どのような取組が行われているのか、フィードバックされているか、先ほど御説明のありました、PDCAの「C」から「A」、「チェック」から「アクション」の部分はどうなっているかは、私も興味がございますので、そこを御説明いただくということも入っております。

この2点で、平成28年度の評価を行ったらどうかというご提案です。

それに当たっては、事前に資料を皆さんにお届けするということになります。後ほどそのスケジュールについても説明があると思いますが、それも踏まえて、6月10日に選んでいくということになりますけれども、今日はその評価の進め方について、皆さんに御意見を伺いたいと思います。

何かありますでしょうか。

#### ○鶴沢委員

平成27年度に進めていたとおり、ほかの分野ということですが、前回と同じように、評価の仕方が変わると内容についても変わってしまうところもございまして、委員長、委員長職務代理者が主導しながら、前回と同じような形で進められれば

と思います。

○源委員長

進め方ということですね。みんなで紙に書いて。実際にやり方としてはそれでいいのではないかという御意見です。

ありがとうございます。ほかに何か。テーマの選び方とか。

○中村委員

個人的には、違う分野をやるのは非常にありがたい話なので、歓迎したいと思いますが、27年度のテーマを選ぶときには、比較的点数の低い事業を選んだという経緯があったというふうに理解しています。そのときの論点としては、評価委員が考える問題点とか、評価委員が考える解決策というフレームワークで、比較的問題がある事業なので、どうしたらよいであろうかということが論点ではなかったかと思います。

今回、前回とは違う分野ということになりますと、比較的点数の高い事業から選ばれるであろうという前提に立つならば、問題点とか解決策というフレームワークというよりも、違ったアプローチになるのではないかと思うのですが。そこはすみません、整理がついていないのですが、どういうフレームワークで議論していったらよいでしょうか。

○事務局

昨年と同じように、これから達成見込みの速報版を作成する予定です。その速報版で、やはり達成度の低い、何らかの問題がある事業について御議論いただければと思っております。

ただ、計画期間が平成25年度から28年度までの4年間ですが、さいたま市には最上位計画として総合振興計画があります。各局が持っている計画は全てそれにぶら下がっています。その中で実施計画というものがあまして、その中に、しあわせ倍増プランの事業がすべて網羅されています。しあわせ倍増プランが終わってしまったからと言って、事業をやめてしまうということはありませんので、いただいた改善意見や御助言は、次の年に必ず生かせると思っております。

○源委員長

今のお話は、他の分野にも評価が低い事業があるということですかね。

あと、4年計画というお話がありましたが、できれば私どもがいただく資料も、平成28年度で最後になりますので、4年間の経緯が分かるような資料をいただければと

思います。

○中村委員

テーマを見ないと、フレームワークは決まらないということですね。

○源委員長

あと、個人的な意見ですが、前回もあったと思いますが、評価が高くても、達成度の指標自体がおかしいのではというものもありましたし、取組全体の戦略を見直していくというものもありましたよね。もしかしたら、そういうことができる事業もあるかもしれません。

○中村委員

そういう回答を期待していました。目標の設定がいいのか、そもそもその目標が合っているのかとか、我々にとってはより難しい課題に今年は直面するのかなと思っていたのですが。問題点と解決策よりはたぶん難しい課題になると思っていました。

○源委員長

そういうものもあるかもしれませんね。

○中村委員

テーマ次第だということですね。

○源委員長

前回と同じようなやり方にしまして、担当部署の方と一緒に考えるという場を設定しますので、そういう意味では、戦略とか目標等についても一緒に議論できるかと思えます。

ほかにいかがでしょうか。

○鶴沢委員

昨年「子どもと親のしあわせ倍増」で、認可保育所の増設がありましたよね。昨今、国の指針とかで待機児童について、計画変更で増設とか、当初計画していた事業内容を変更した事業はあるのでしょうか。これから出てくるのでしょうか。枠を広げて急遽やらなければならないとか。

○事務局

認可保育所の例で言えば、国の交付金が創設されたことによりまして、保育所の増設もありますが、どちらかというとな保育士の確保策の部分に交付金が割り当てられている状況です。もちろん認可保育所の増設についても計画を上回る整備の予算は計上さ



れています。

○源委員長

ほかに評価方法とか、あるいは、昨年やってみて、もっとこういうやり方がいいのではないかとか、やり方について何かありますか。

○大内委員

前年の反省の部分で、2点ほど引っかかっていることがありまして、まず、第1点が残業の分野。残業は人の体や心を壊しかねない部分で、もうちょっと具体的な改善に結びついて減っていかないと、人にとって大変なことになるのではなかろうかと。

○源委員長

人の改革の部分ですね。

○大内委員

そうですね。そういう意味で、前年に引き続きもう一度取り上げてみてもいいのではないかというのが1点です。

それともう1点気になっているのが、10月の報告会のときに、長野先生からの講評のところで、買い物券やクーポン券は、そもそもグランドデザインを描くのではなかったかという御指摘があったと思いますが、あの問題については、一部署だけでは厳しい問題かと思っています。市全体として取り組むなら部局横断的な取組が必要かと思っております。そういう観点で横断的な取組も含めて、グランドデザインを描けるような体制がほしいと思っています。

実は、買い物券やクーポン券の提案を申し上げたときに、さいたま市に本社がある会社の一覧を担当部署の方にお渡ししていたのですが、たぶんそこから一步踏み出していかないと、なかなか実績につながらないだろうと思っています。

○源委員長

最初のところは、昨年やったけれども今年も様子を見たほうがいいのではないかといいことで、その1つの例として、人の改革、ワークライフバランスのところですね。

2点目は、色々な事業を見ていくと、横断的なものが出てきますよね。今回もまたそういう事業が出てくると思います。それから今、御指摘のあったような部分に関しては、PDCAの観点から昨年の提案をどのように考えているのかというお話があると思いますので、そこでまた確認や意見交換ができればいいかと思っています。

○大内委員

はい。

○源委員長

ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

進め方については、事務局案の、前回やらなかった部分を念頭に置きつつも、今の大内委員の御指摘のように、そうは言ってもここは重要なので、もう一度やってみたいというものも踏まえて、日程の関係でまた6事業ぐらいになると思いますが、選んでいきます。もしかしたらまた評価の低い事業を選ぶという考え方もありますが、そうでないものも入るかもしれないということになります。

2点目は、今、グランドデザインの御指摘があった事例もそうですが、昨年の委員会のおきに出た意見等が、どのようにフィードバックされているか、どのように考え方が取り入れられているのか、皆さんも気になる点があると思いますので、そのあたりの報告や説明を受けながら進めていければと思います。

このようなやり方でよろしいでしょうか。

何かありますか。

○長野委員長職務代理者

大内委員からもありましたように、2回目以降の議論に関しまして、これから各事業の振り返り兼見込み調書を作っていただいて、それをご覧になって、大内委員からは残業の問題をという意見が出ましたが、それに限定せず、結果として6事業ぐらいやることになっていきますが、それが大事だからやりましょうという事業が6分の3ぐらいになってもいいのではないかと考えております。それも含めて選んでいただくのが良いのではないかと思います。

部局横断的なことについては、これは本当に大事なことで、また難しい部分も正直ありますが、先ほど申し上げたように、6事業の中で、それが6分の2ぐらいになっても当然ではないかと思っています。

必ずしも、昨年やらなかった分野から選ぶということでもなく、特に皆様がさいたま市にとって大事だと思う、その価値基準で選んでいただければいいと思っています。

もちろん、ばらつきを最後に見て、調整をしなければいけないので、その場合は別途御相談になるかと思いますが、ぜひお願いしたいと思います。

大内委員が先ほどおっしゃっていたグランドデザインにつきましては、事業として選

ぶという側面と、昨年議論をした事業のフィードバックを行うということの2つの御提案でよろしいでしょうか。

○大内委員

はい。結構です。

○源委員長

そうしましたら、事前に皆さんにお考えいただくこととなりますが、6月10日までに。事前にどのような資料をいただけるのでしょうか。

○事務局

今の考えでは、昨年同様に、平成27年度終了時点での取組状況について、速報版を作成して、事前に皆様にお送りしたいと考えております。

先ほど委員長と長野先生とお話させていただいたのですが、その時点で、アンケートのような、どういった事業を取り上げたらいいいのかということ、こちらにいただくと参考になると思っております。

5月下旬ぐらいになるかと思いますが、速報版をなるべく早く取りまとめまして、お送りさせていただきます。それをご覧いただきますと、どの事業が遅れているのか、問題があるのかを分かっているかと思っております。

○長野委員長職務代理者

調書をお送りいただくわけですが、今年度1年間の委員会の大きな特徴は、みんなで盛り上がるという、委員だけではなくて、所管部局の方も同じテーブル、しかも隣に座って議論をする、一緒に問題を考えるというのが、この委員会の設計上の特徴です。

これは委員としてのリクエストなのですが、所管課からの資料を取りまとめてお送りいただく中で、もし可能であれば、こういうことを委員会の皆さんと議論したいというメッセージカードのような、プレゼン資料のような、我々はこの問題意識を持っていて、これを解決したいと考えているので、ぜひ一緒に議論したいというようなメッセージのような物が資料の中に入っていれば、それも1つの選ぶ基準になるのではないかと思っております。

できるかどうか分かりませんが、ぜひ御検討いただければと思います。

○源委員長

昨年度のやり方を皆さん見ていただいたので、評価して査定するとか、ランキングを付けるとか、そういう評価の設計ではないということは御理解いただいているかと思

います。

所管課の方は何が課題であるかという考えをお持ちだと思うので、それをメッセージとしていただけると、検討するときの材料になると思います。

○中村委員

思いつきなのでうまく言えるか自信がないのですが、我々が去年1年間やったのは、かなり細かい政策を、もちろん一定程度の大きさはありますが、単一施策を評価、議論したとするならば、今回やってみたいと漠然と思っているのは、しあわせ倍増プラン2013の1ページ目には、「しあわせ実感都市の実現に向けて」と書いてあって、しあわせ実感都市を実現するために、さいたま市としてやらなければならない一番大きなことは何か。細かい政策ではなくて。そのための政策パッケージは、今こういうことをやっていると、それについて委員会から、それがいいのかとか、設定は難しいですけども、それはどこまでできている、できていないなど、やり方等について意見を言うというような切り口はないでしょうか。1つ1つではなく、もう少し大きなかたまりとして土俵を設定することはできないでしょうか、という考えなのですが。

○大内委員

今おっしゃっているのは、例えば事業がたくさんあるけれども、評価をするために無理やり作った事業があり得るのではないかという観点ですか。

○中村委員

というより、議論の対象がやや細かい印象があるので、大きな視点で捉えたらどうなるだろうと。もちろん行政未経験なので、そんなことをしたら論点がぼやけてしまうということになるかもしれないですし、でも、しあわせ実感都市は、例えば3つに分けて考えたら、何と何と何か。あるいは、市役所の中ではどのように整理しているのかと。

○大内委員

そうしましたら、こういう大きな絵があるからこの問題を論議すべきである、というような議論にも至っていければいいということでしょうか。

○源委員長

いかがですか。

おそらく、しあわせ実感都市の実現というのは、すごく大きなビジョンなのだと思います。

もしかしたら、中村委員が言われているのは、昨年、その下にある1つの事業と関連事業をやりましたけれども、もう少しかたまりで、しあわせ実感都市と事業の間のどういう状態、たぶんいくつかの状態が必要になってくると思いますが、そういうレベルで評価をしたらどうかという御提案でしょうか。

○中村委員

そうしたらどうなるのだろうとと思っているぐらいで、良い悪いの判断ができないのですが。

○源委員長

本当にそういうふう設計されているかどうかは置いておいて、例えば、行財政改革推進プランは3つの柱で設計されていて、1つの大きなかたまりという見方ができると思います。設計されているということの意味は、こういうことをやれば、確かにこういう効果が出るということが議論されているのだと思います。同じ種類を集めて1つの分野にしているのではなくて、ある目的のために、例えば「子どもと親のしあわせ倍増」というと、非常にぼんやりしていますよね。もう少し具体的にどんな状態を狙っているというものがあって、そのために例えば、ここにあるような全部が効果に向かってやるべきことなのかという議論は、1つの切り口だと思います。

昨年、関連事業としてまとめたのは、少しそういう見方があって、1つの事業だけではなくて、関連する事業で、つまり目的を共有するような事業というものを念頭に置きながら、しかしながら1つの事業を見ていくという評価の仕方でした。なので、28年度も関連事業は、ある程度かたまりでとらえていったほうがいいと思います。

お話を伺っていて、もう1つ面白いと思ったのは、今回最後の年なので総括をすることになります。そのときに、まさに言われたように、しあわせ実感都市の実現というものが非常に大きなビジョンとしてありますが、それを横断的に見たときにどうだったのかという議論は、もしかしたら最後にできるかもしれません。その場合根拠がどうのというよりも、定性的に委員がどう考えるかを、しあわせ実感都市というものに向かって、横断的に見て、これで良かったのだろうかという議論をしてみても面白いのではないかと感じました

いかがでしょうか。

○長野委員長職務代理

関連事業を集めてみたら、倍増プランの冊子の色々な部分から事業を持ってくると

いう状況になりました。裏を返すと倍増プランの中ではそういうかたまりになっていなかったということがあり、改めて整理するという作業を試みたわけです。

一方行革プランのほうは、あちこちから持って来たりせずに、冊子の中のかたまりで見ることができたということを見ると、計画の性質が違ったのだと改めて思い直しました。

その意味では、中村委員にお話いただいたようなかたまりは、行財政改革プランの領域だとデータも揃いやすいと思ったのですが、倍増プランはデータをちゃんと編集し直さないといけない。それがうまくできれば面白いと思います。

○源委員長

関連事業も、やっぱり持ってきていただいて、その内容も踏まえつつ議論していく中で、もしかしたら提言の中で論理的に組み立てる必要性みたいなものを指摘するということはできるかと思います。

○長野委員長職務代理

そうなりますと、先ほど中村委員からお話のありました戦略の見直しのところについて、パッケージのあり方を実はこういうふうに変えるべきだったということが、作業から見えるのではないかという気がしています。

いずれにしても、議論の中では色々と参照されるべきことがあると思うので、27年度もAという事業ないしは取組を議論した結果として、かたまりができるということになりましたから、同じ作業を繰り返すことになるのではないかと予測しております。

○源委員長

今、御指摘のあった議論も出てくるのではないかと思います。

ありがとうございます。

事務局のほうから何かありますか。

○事務局

特にはないです。

○源委員長

選定するとき、昨年もそうだったと思いますが、皆さんに問題点などを書き出してもらって、そのときにも事業は違うけれども、似たような目標ということで、かたまりにした作業がありましたよね。それを6月10日にやっていきたいと思います。

ほかにどうでしょうか。

○長野委員長職務代理

先ほど鵜沢さんからお話のあったことの確認ですが、昨年と今年で大前提が変わっているからということがありました、大丈夫でしょうか。

昨年6事業を点検評価させていただきましたが、大きく前提が変わってしまっているので、評価した結果が使えなくなっているというものは。

○事務局

それはいいです。評価していただいて、御意見・御提言をいただいた状況と変わっているということは聞いておりません。

○源委員長

昨年の選定の仕方を踏まえて、何かお気づきの点など、あと冒頭に鵜沢委員からお話のありました、やり方について、カードを使って基本的には同じようにやっていきたいと思いますが、そのような進め方について何かありますか。

このやり方でよろしいですか。

○鵜沢委員

皆さんやり慣れていますから。

○源委員長

特にならなければ、先ほどもお話がありましたように、27年度の資料は皆さんのお手元には5月に届くということですので御提案いただいた内容を基本として御検討ください。

その中に、27年度の内部評価等の資料が入っているのでお目通しいただき、かつ、6月10日の前に、皆さんのほうで興味がある、関心があるという事業を、別に6つ出さなくても、1つでも結構ですので、ご自分が興味のあるものを書いていただきたいと思います。郵送になると思いますが、まず事前に御意見を伺って、6月10日に、それを踏まえた事務局の案を提示していただけるということですので、また一堂に会して、どういったものを見ていくか、また、今回最後ということで、プラン全体の横断的な視点を確保するという1つの総括の目的もございまして、それも踏まえて、しかしながら、さいたま市にとって非常に重要だと思えるところを選んでまいりたいと思います。

よろしいでしょうか。

○委員

(よろしく申し上げます。)

○事務局

次第3、その他といたしまして、本日平成27年度の市民評価委員会の最後でございます。1年目の締めくくりといたしまして、大熊都市戦略本部長より御挨拶させていただきますので、よろしく願いいたします。

○大熊都市戦略本部長

都市戦略本部長の大熊でございます。

本日、今年度最後の委員会ということで、一言御挨拶を申し上げます。

昨年の3月12日の初会合以来、10月29日に開催いたしました市民評価報告会を含めまして、今回まで11回にわたり熱心に御審議いただきまして、大変ありがとうございました。

源委員長や長野委員長職務代理をはじめ、各委員の皆様におかれましては、市政に対する厳しい御意見や、問題解決へ向けた的確な御助言等をいただきました。

このことを無駄にすることなく、現在、各所管におきましては、いただきました御意見を踏まえまして、改善に取り組んでいるところでございます。

具体的な例を申し上げますと、認可保育所の整備につきまして、重点地域への補助金が予算化されているということがございます。

平成28年度におきましても、引き続き、当委員会での御審議を通じまして、御意見や御助言等をいただき、事業の進捗や改善に取り組んでまいりたいと考えております。

最後に、私事で大変恐縮ではございますが、3月末を持って定年退職となります。次の本部長には、この1年の委員の皆様活動をしっかり引き継いでまいります。

1年間大変お世話になりました。どうもありがとうございました。

○事務局

本日も熱心な御議論をいただきまして、誠にありがとうございました。

最後に事務連絡ですが、次回の委員会につきましては、先ほど資料2でお示ししたとおり、6月10日金曜日となります。また約3か月、間が空くこととなりますが、よろしく願いいたします。時間と場所につきましては、本日と同じ午後6時30分から、この第14集会室での開催を予定しております。正式には改めてご案内を差し上げたいと存じますので、よろしく願いいたします。



それでは、以上をもちまして、第10回市民評価委員会を閉会させていただきます。  
本日はどうもありがとうございました。